

## 愛媛支部

### 三団体学習会

毎年1月に、愛媛県聴覚障害者協会・愛媛県手話サークル連絡協議会と一緒に「三団体学習会」を開いています。今年は1月21日（日）に「手話言語条例について学ぼう!!」というテーマで開催しました。

最初の講師は、鳥取県障害福祉社会参加推進室長の明場達郎氏です。全国初の手話言語条例の、制定の経緯やその後の活動について伺いました。次は、北海道ろうあ連盟副理事長の佐藤英治氏です。北海道で初めて手話言語条例が制定された石狩市の状況について、当事者の立場から語っていただきました。午後は、4グループに分かれて話し合い、講師への質問を出し合いました。条例を今までよりも身近なものとして感じられたようで、「条例の周知方法は?」「災害との関連は?」など、どのグループからも鋭い質問が出されていました。

これをきっかけに愛媛県でもさまざまな立場の人が一緒にあって、手話言語条例について考えていけたらいいと思います。



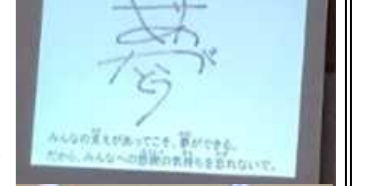
### 『はるかな宇宙に夢をよせて』

## 香川支部

香川では、2月18日(日)香川県社会福祉総合センターにて、第25回香川手話フォーラムを開催しました。毎年恒例の県聴障協会との合同の行事で、通・研の会員26名と聴障協会・賛助会員・講座受講生あわせて77名の参加がありました。

今回は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）に勤務されている春日晴樹氏を講師にお招きし「はるかな宇宙に夢をよせて」と題して講演をしていただきました。現在の仕事も素晴らしいけれど、そこに辿り着くまでが波瀾万丈というか、とにかく凄い！サラリと話されるが並大抵の努力ではできないことだと思いました。エネルギーで、諦めない、全ての物事をポジティブにとらえ、絶えず前を向いて進んでいます。その生き方、考え方に驚き、敬意を表したり共感したりと、時間を忘れて一緒に宇宙を旅していました。夢は自分の手でつかむ、諦めなければ夢はかなうことを教えていただき、たくさんの夢と元気をいただきました。

午後からは、第1「手話」・第2「国語」・第3「教育」の3つの分科会に分かれてそれぞれのテーマを元に、皆が一緒になり、交流しながら学習しました。



# あさいと 結社

### 定例学習会 ～手話で話そう第6弾～

とさ通研では、1月21日（日）定例学習会を行いました。一年中で一番寒い時季なのに、この日は春を思わせるような穏やかな日になりました。午後、高知県聴覚障害者情報センターの研修室は、暖かい光に包まれ、参加のみなさんもたくさんの「笑顔」の花を咲かせていました。

この日の学習は、前田真紀会長が担当する～手話で話そう～シリーズ第6弾。毎年好評の技術学習会です。今年のテーマは「単語のアレンジで表現力アップ!？」。アレンジ次第で、伝わる表現、豊かな表現ができる、見ている人に「あっ！上手い！！」と思わせる表現の極意を教わりました。

#### 《参加者からの感想》

- 当日の朝まで体調が気がかりで迷っていたが参加して正解だった！！
- 手話で話す時、どうしたら伝わる表現ができるのかをいつも悩んでいたが、単語をアレンジすることで表現力は広げられるんだということがとても分かりやすく学習できた。その表現力を磨くヒントは、実は、日常生活の中にいっぱいあるということが分かった。

## 高知支部



### 廣瀬芽里帰国報告会

2月25日(日)「廣瀬芽里 帰国報告会」を開催しました。青年海外協力隊（JICA）のメンバーとしてドミニカへ派遣され、ドミニカ共和国での活動を通して「Yes!

Deaf Can!」を立ち上げて、ドミニカのろう児・者の支援活動を始めました。現地のろう学校での子ども達への指導に、スペイン語を習い、ろう者のモデルとなる。現地は貧富の格差があり、労働力としての稼ぎを当てにさせられている子供を学校へ行けるように学校の大切さを親に説明したり、校名が差別表記となっていることを知りすぐに校名を変更したり、権利意識を自覚できるような支援を行った。卒業後も自立した生活ができるよう就労プログラムを考え、自立を支援するなど、「ろう者でもできるさ！」を自らが率先して活動をしてきた話にろう者も興味を持って聞いていたのが印象的でした。地下50mから採掘したラリマーという水色の石でつくられたアクセサリーの販売では、手作業でつくられた素朴な作品一つひとつを手にし、収益はろう者支援の活動にあてられるため、購買意欲も自然と高まりました。

## 徳島支部

